

V 区政サポート一通信

1 区政サポーター通信について

「区政サポーター通信」は、アンケート調査や講演会などの区政サポーター活動についての概要を、随時まとめてサポーターの皆様にお送りしている。そして、活動内容を広く区民の皆様にも知っていただけるように、大田区ホームページにも掲載している。

2 発行実績

区政サポーター通信第5号 平成26年5月発行

区政サポーター通信第6号 平成27年3月発行

区政サポーター通信【第5号】

区政サポーターの皆様へ

いつも大田区政にご理解とご協力を賜りまして、ありがとうございます。

さて、『平成 25 年度大田区区政サポーター活動報告書』はご覧いただきましたでしょうか。皆様にご協力いただいたアンケート調査の結果やたくさんの貴重なご意見は、事務局をはじめ各部局にとって、大変参考になりました。

今年度はアンケート調査に加えて、区政サポーター会議なども予定しております。引き続きのサポートをよろしくお願いいたします。

「区政サポーター通信第5号」では、先日行った「平成 26 年度第1回アンケート調査」の集計結果（概要）についてご報告いたします。

第1回アンケート調査結果（概要）

ごみ減量・リサイクルを推進し、限られた資源を有効に活用する循環型社会の実現に向け、具体的な施策の基礎資料とするために、調査を行いました。

1.調査期間

平成 26 年 6 月 12 日（木曜日）～ 6 月 26 日（木曜日）

2.調査項目（★は本紙で取り上げたもの）

(1)日頃の行動について

①ごみの分別を主に行う人

②日頃使っているごみ集積所の種類

★③使用済み小型家電の回収の認知度、

使用済み小型家電の資源化を進めることに対する意識

④生ごみの水切りの実施状況

⑤マイバッグの利用状況

⑥家庭ごみを増やさないための計画的な買い物の実施状況

⑦マイ箸、マイボトルの利用状況

⑧缶・びんの資源回収の実施状況

- ⑨本・CD・ビデオ・ゲーム等のリサイクルショップの利用状況
- ⑩洋服のリサイクルショップ・フリーマーケットの利用状況
- ⑪インターネットを利用したリサイクル商品の購入状況
- ★⑫環境やごみのことを考えた買い物の実施状況
- ★⑬レジ袋の有料化に対する意識

(2)大田区のごみ対策やリサイクル方針について

- ★①ごみ減量やごみ分別に積極的に協力したいと思ったきっかけ
- ★②分別に協力しにくいと思う理由
- ★③ごみ出しが困難な方に対する戸別収集の認知度
戸別収集を活用した高齢の方・障がいのある方等を対象にしたサービス

(3)ごみ処理の有料化について

- ★①家庭ごみの有料化に対する意識
- ★②家庭ごみを出す量に応じて費用負担となった場合のごみ減量の取組み
- ★③家庭ごみの有料化を検討する上で重視してほしいこと

(4)家庭から出るごみについて

- ★①雑がみを資源化できることの認知度、雑がみの資源化を進めることに対する意識
- ★②廃食用油の回収の認知度
 - ③スプレー缶・エアゾール缶・カセットボンベなどのごみ出しの方法
 - ④ライターのごみ出しの方法
- ★⑤粗大ごみの持込みによる手数料の減額・免除制度の認知度
 - ⑥資源の出し方
- ★⑦資源の品目を増やすことに対する意識、資源の品目を増やした場合の取組み
 - ⑧リサイクルしている資源の量
- ★⑨環境やごみに対する自由意見

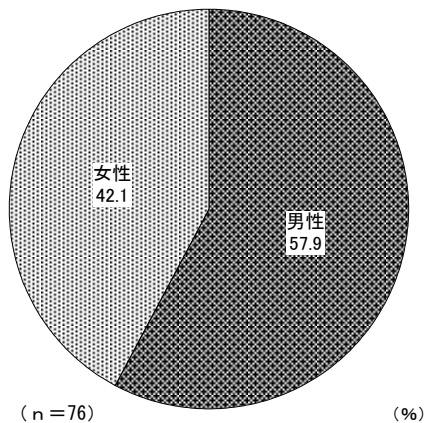
3.調査票回収結果 (調査票配付 97 票)

- 調査票回収数 76 票 (うち郵送 30 票、Eメール 46 票)
- 有効回収率 78.4%

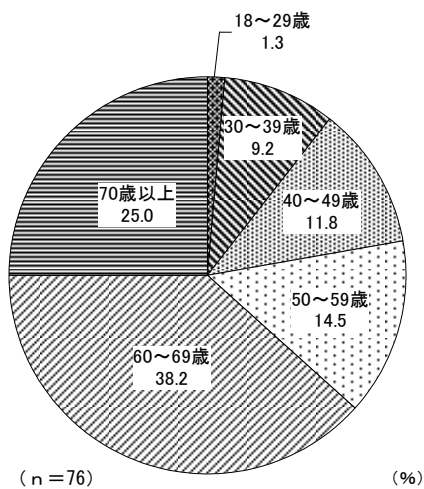
【第1回アンケート調査結果】

1 回答者の属性

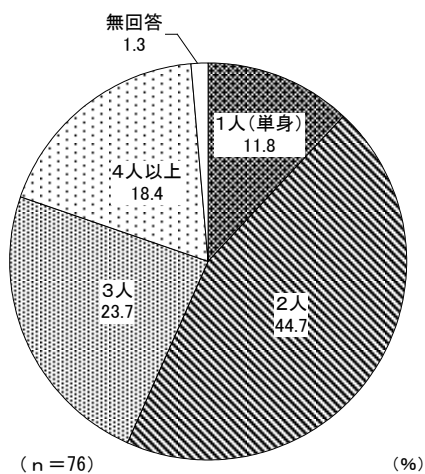
【性別】



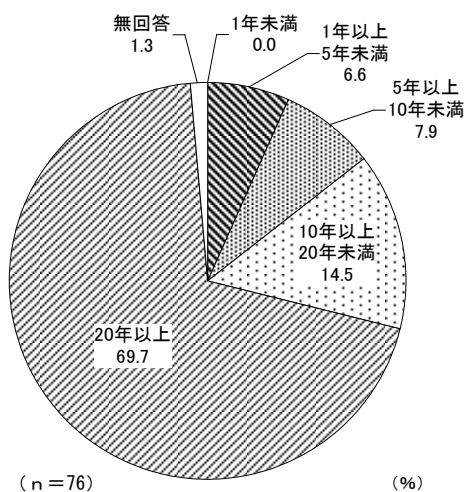
【年齢】



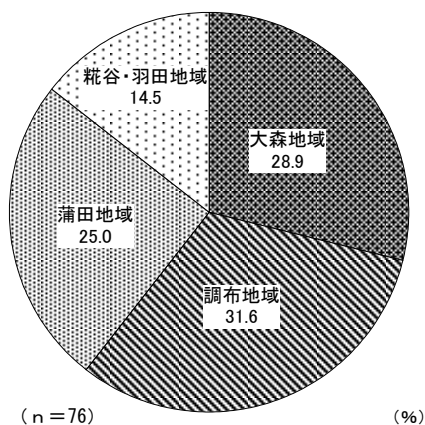
【家族人数】



【居住年数】



【地域】



2 調査の結果（抜粋）

【担当課コメント】

区では、ごみ減量・リサイクルを推進することで、限られた資源を有効に活用する循環型社会の実現に向けた取り組みを進めています。今回、施策を推進するため、課題を把握することを目的とし、質問をさせていただきました。

昨年10月から小型家電リサイクル事業を始め、ご家庭にある使用済小型電子機器を回収して資源化を進めてから、10か月が経過しました。今回の調査において事業を6割近くの方が「知らない」という回答がありました。

また、粗大ごみの持ち込みや廃食用油の回収制度についても、事業周知がまだまだ十分でないことが今回の調査により判明いたしました。

一方、日常的な取り組みの中で、生ごみの水切り実施や雑がみの資源化について、9割の方が取り組んでいただいていることもわかりました。

このほか、区でおこなっている高齢の方、障がいのある方を対象とした戸別収集を活用したサービスに対する中で、安否確認に多くのご意見をいただきました。高齢社会を迎え、必要とされているサービスも多様化していることがうかがえました。

自由意見では、容器包装における事業者の責任問題や資源回収での分別の仕方についてのご提案などがありました。

いただいた貴重なご意見を踏まえ、事業の周知方法など、まだまだ工夫が必要なことがわかりました。持てる媒体を活用するなど、今後、事業の周知を工夫してまいります。

(環境清掃管理課)

(1)日頃の行動について

③-1 使用済小型家電の回収の認知度

問3(1) 区では、平成25年10月から使用済小型家電に貴重な資源が含まれていることから、大森駅、蒲田駅付近の駐輪場や18特別出張所などの区内26か所に回収ボックスを設置して資源化の取組みをはじめました。この回収のことをご存じですか。

※「小型家電」とは…携帯電話、携帯音楽プレーヤー、携帯ゲーム機、デジタルカメラ、ポータブルビデオカメラ、ポータブルカーナビ、電子辞書、卓上計算機、ACアダプター、USBメモリーの10品目の小型家庭用電子機器

平成25年10月から行っている使用済小型家電の回収について知っているか聞いたところ、「知っている」が42.1%、「知らない」が57.9%となっています。

③-2 使用済小型家電の資源化を進めることに対する意識

(問3(1)で「知っている」と答えた方に伺います)

問3(2) 使用済小型家電の資源化を進めることについてどのようにお考えになりますか。

使用済小型家電の資源化を進めることについてどのように考えるか聞いたところ、「協力したことがある・今後協力したい」が93.8%と非常に高くなっています。

⑫環境やごみのことを考えた買い物の実施状況

問12 買い物をする時は、環境やごみのことを考えて商品を選んでいきますか。

買い物をする時は、環境やごみのことを考えて商品を選んでいるか聞いたところ、「考えて選んでいる」が42.1%となっています。「どちらともいえない」は47.4%、「考えずに選んでいる」は10.5%となっています。

⑬レジ袋の有料化に対する意識

問13 最近、スーパーなどで、レジ袋を有料としているところが多くなりました。いつも買い物するお店で「レジ袋は5円になりました」と言われたとします。あなたの「気持ち」に最も近いものを教えてください。

いつも買い物するお店で「レジ袋は5円になりました」と言われたとしたら、どのように思うか最も近いと思う考えを聞いたところ、「少しくらい面倒でも、マイバッグを持ち歩くなどして、レジ袋を買わない工夫をすると思う」が80.3%と高くなっています。「少しくらい遠くても、レジ袋が無料のお店で買い物をしたいと思う」は10.5%、「1枚5円ならレジ袋を買って、いつものお店で買い物をすると思う」は9.2%となっています。

(2)大田区のごみ対策やリサイクル方針について

①ごみ減量やごみ分別に積極的に協力したいと思ったきっかけ

問14 ごみ減量やごみ分別に積極的に協力したいと思った「きっかけ」がありましたら、教えてください。

ごみ減量やごみ分別に積極的に協力したいと思った「きっかけ」は何か聞いたところ、「環境問題への関心」が75.0%で最も高く、次いで「当たり前だと思うから」(67.1%)、「地球温暖化への関心」(55.3%)、「ニュースや新聞などのメディアの影響」(25.0%)、「自治会・町会へのお知らせ」(18.4%)などの順となっています。

②分別に協力しにくいと思う理由

問 15 分別に協力しにくいと思うことがありますか。あるとすれば、その理由を教えてください。

分別に協力しにくいと思うことがあるか、その理由を聞いたところ、「資源回収後、どのように再利用されているかわからない」が 18.4%、「分別のルールが分かりにくい」が 17.1%で、この2項目が多くなっています。一方、「分別に協力しにくいとは思わない」は 53.9%となっています。

③-1 ごみ出しが困難な方に対する戸別収集の認知度

問 16(1) 大田区では、高齢の方や、障がいのある方等、集積所へのごみ出しが困難な方に対して、戸別収集を行っています。このことについて、ご存知ですか。

高齢の方や、障がいのある方等、集積所へのごみ出しが困難な方に対して戸別収集を行っていることを知っているか聞いたところ、「知っている」が 11.8%、「知らない」が 88.2%となっています。

③-2 戸別収集を活用した高齢の方・障がいのある方等を対象にしたサービス

問 16(2) 戸別収集を活用した、高齢の方や、障がいのある方等を対象にしたサービスについて、ご提案があれば具体的に記入してください。

ごみ出しが困難な方に対する戸別収集を利用したサービスについての提案を自由記述形式で聞いたところ、30人から回答がありました。内容の分類にあたっては、記述の趣旨を損なわないように留意しながら文言を改めたものもあります。すべてのご意見は、報告書に掲載いたします。

| 分類 | 件数 | 内容（主な声） |
|-------------------|-----|---|
| 現在行っている戸別収集に対する意見 | 14件 | 戸別収集することは、ごみ出し困難な方も積極的に家の中のごみをためず部屋の整理も自ずとでき、とても良いサービスと思う。収集する人とのコミュニケーションができ、安否確認になると思う。 |
| | | 誰がひとり暮らしをしているとか、障がいがあるのかなど、わかりづらい。本人の希望により戸別収集を兼ねた安否確認ができれば良い制度と思う。 |
| | | 集積所に出しにくい方に対して、戸別収集を行った方がいいと思う。ボランティアとして行うべきではないか。 |
| | | 家の前に指定のBOXがあり中をのぞいてあれば協力してみたい。またこのことは行政がするのではなく近所の助け合いだと思う。 |

| | | |
|------------|-----|--|
| | | <p>自宅はマンションなので今後も問題ないと思うが、このようなサービスは必要だと思う。マンション内でも、外に出られない人が出てきたときには考えねばならない。</p> <p>便利だとは思いますが、ばらばらに住んでいたり、遠隔地だったりすると行政コストが高くなりそうで非常に心配。</p> <p>オートロックのマンションの住人の中には、ごみ屋敷化している人がいる。なかなか部屋に立ち入れず問題を残す。</p> <p>戸別収集は必要がないと思う。</p> |
| 新しいサービスの提案 | 10件 | <p>家族申し出による安否確認や、有料による買い物代行。大田区内共通商品券などを利用可能にする。</p> <p>ひとり暮らし高齢者の安否確認を行うと良い。時間が取れるならば、空気の入れ替えとか、トイレ、台所などのチェックをしたら良い。</p> <p>町内会見守り事業との連携を図る。</p> <p>高齢者や障がい者の方に、予め分別されたごみ袋（分別項目記載）を渡しておけば、戸別収集がスムーズになると思う。</p> <p>家の中にある今後ごみとして出しそうなものは次回に送らず、その場で積極的にごみとなるものを見つけて、一緒に収集するなど。</p> |
| その他の意見 | 6件 | <p>おおた区報で周知をしてもらえるとわかりやすいと思います。</p> <p>大田区の広報に出ていたのか。毎回読みますが気づかなかった。自治体でもっと呼びかけてはどうか。回覧板などでも。</p> <p>集積所に分別せずに出したり、不法投棄をしている人への指導をすべき。</p> |

(3) ごみ処理の有料化について

① 家庭ごみの有料化に対する意識

問 17 ごみを減らすため、ごみ処理を有料化する市町村が増えています。家庭ごみの有料化についてどう思いますか。

家庭ごみの有料化についてどう思うか聞いたところ、「一定量のごみ処理は税金で行い、それ以上の処理費は量に応じ、出す人が負担するのがよい」が 44.7%で最も高くなっています。「家庭ごみの処理は公共サービスなので、今のまま税金で処理するのがよい」は 36.8%、「ごみ処理費用は全て、ごみを出す人がその量に応じて負担するのがよい」は 10.5%となっています。

② 家庭ごみを出す量に応じて費用負担となった場合のごみ減量の取組み

問 18 家庭ごみが、出す量によって費用を負担する仕組みとなった場合、あなたは出すごみの量をどのように減らしますか。

家庭ごみが、出す量によって費用を負担する仕組みとなった場合、あなたは出すごみの量をどのように減らすか聞いたところ、「ごみになりそうなもの、すぐに必要のないものなど、無駄な買い物を控える」と「マイバッグ等を持参してレジ袋など過剰な包装や容器を避けた買い物に心がける」がともに 56.6%で最も高くなっています。次いで「家庭にあるものをできるだけ長く使用してごみを出さないようにする」(48.7%)、「普段からごみの量を減らす取り組みをしているので、これ以上ごみの量を減らすのは難しい」(28.9%)などの順となっています。

③家庭ごみの有料化を検討する上で重視してほしいこと

問 19 ごみ有料化を検討する場合、どのようなことを重視すべきだと思いますか。

ごみ有料化を検討する場合、どのようなことを重視すべきだと思うか、第1位から第3位までの順位を聞いたところ、第1位から第3位までの累計では、「有料化だけでなく、他のごみを減らすための方法を併せて検討すること」が 76.3%で最も高くなっています。次いで「ごみを多く出す人ほどたくさん支払う公平な仕組みとすること」(61.8%)、「有料化により減ったごみ処理分の税金を他の用途（福祉や教育等）に使うこと」(43.4%)、「高齢者等に対して負担を軽くする等の配慮をすること」(34.2%)などの順となっています。

また、第1位の回答では、「ごみを多く出す人ほどたくさん支払う公平な仕組みとすること」が 28.9%で最も多く、次いで「どんな条件であっても、有料化には反対」(21.1%)、「有料化だけでなく、他のごみを減らすための方法を併せて検討すること」(19.7%)などの順となっています。

(4)家庭から出るごみについて

①-1 雑がみを資源化できることの認知度

問 20(1) 区が収集した可燃ごみの中には、資源化できるトイレットペーパーやラップの芯・包装紙・封筒・菓子箱・ティッシュの箱・紙袋などの紙ごみ（雑がみ）が約 17%入っています。雑がみは、雑誌と一緒にしばるか紙袋に入れてしばって「資源」の日に出していただくと、ごみの減量と資源化を進めることができます。雑がみは、資源化できることについて、ご存知ですか。

雑がみは資源化できることについて知っているか聞いたところ、「知っている」が 69.7%、「知らない」が 28.9%となっています。

①-2 雑がみの資源化を進めることに対する意識

問 20(2) 雑がみの資源を進めることについてどのようにお考えになりますか。

雑がみの資源化を進めることについてどのように考えるか聞いたところ、「協力したい」が 94.7%と非常に高くなっています。「協力したくない」は 3.9%となっています。

②廃食用油の回収の認知度

問 21 廃食用油は、ペットボトルに入れていただき、特別出張所（入新井を除く）、エセナおおたの区内 18 か所で毎週水曜日の午前 11 時～午後 3 時に回収していることをご存じですか。

特別出張所（入新井を除く）、エセナおおたの区内 18 か所で毎週水曜日の午前 11 時～午後 3 時に行っている廃食用油の回収について知っているか聞いたところ、「知っている」が 18.4%、「知らない」が 80.3%となっています。

⑤粗大ごみの持込みによる手数料の減額・免除制度の認知度

問 24 粗大ごみは、日曜日に限り、京浜島の持ち込み場所までご自分で持ち込め、手数料が減額または免除となる制度をご存じですか。

粗大ごみの持込みにより手数料が減額・免除となる制度を知っているか聞いたところ、「知っている」が 44.7%、「知らない」が 55.3%となっています。

⑦-1 資源の品目を増やすことに対する意識

問 26(1) 大田区では、現在、①新聞紙とチラシ ②雑誌と雑がみ ③紙パック ④段ボール ⑤飲食用びん ⑥飲食用缶 ⑦食品トレイ ⑧ペットボトルの 8 品目を資源として回収しています。今後、資源の品目を増やし、ごみ減量を進めることについてどのようにお考えになりますか。

今後、資源の品目を増やし、ごみ減量を進めることについてどのように考えるか聞いたところ、「資源品目を増やしてほしい」が 36.8%、「現状のままでよい」が 56.6%となっています。

⑦-2 資源の品目を増やした場合の取組み

問 26(2) 資源の品目を増やした場合についてどのようにお考えになりますか。

資源の品目を増やした場合、協力するか聞いたところ、「協力する」が 61.8%と高くなっています。「品目によっては協力する」は 30.3%、「協力しない」は 1.3%となっています。

◎環境やごみに対する自由意見

問 28 環境やごみについて、ご意見などあれば自由にお書きください。

自由記述形式で聞いたところ、24人から25件の回答がありました。内容の分類にあたっては、記述の趣旨を損なわないように留意しながら文言を改めたものもあります。すべてのご意見は、報告書に掲載いたします。

| 分類 | 件数 | 内容（主な声） |
|--------------|-----|--|
| 資源について | 10件 | リサイクルされる行き先をもっと明確にして、どれだけの効果があるか配信してほしい。 |
| | | 細かくて仕分けが面倒かもしれないが、プラスチックも資源ごみとして回収してはどうか。 |
| | | バスタオル、タオルケット、シーツ等は今のところ資源ごみではないので、可燃物として出しているのがもったいないと思う。資源ごみにはならないのか。 |
| | | 資源ごみの無断回収業者対策が重要と考える。 |
| | | 協力したいが、指定日までためるのが面倒なので、駅に1か所くらいリサイクルセンターを作ってほしい。 |
| ごみの分別について | 6件 | 材料の複合ごみの分別の仕方のルールの周知。ダイオキシン発生の可能性のあるごみの分別化。 |
| | | ごみの埋め立ては限界があり、焼却は環境を悪くするので、分別再利用を徹底すべきと考える。そのためには、行政は力を惜しまず行うことにしていただきたい。 |
| | | リサイクルや分別は習慣なので、子どものうちから身につけられるよう、教育が大切だと思う。 |
| ごみの出し方について | 4件 | 箱は潰して折りたたむ。生ごみは水を切り、カラスに荒らされないように新聞にくるんでから袋に入れる。以上常に思っていることである。 |
| | | 生ごみの保管は風通しの良い場所に、臭いが強いものは小袋に入れ、空気を抜いてしっかり密封に心がけを。 |
| ごみの減量について | 3件 | 商品の過剰包装について、各業界で統一基準の策定。 |
| | | 消費者の努力、メーカーの改善の両方が必要だと思う。 |
| ごみ処理の有料化について | 1件 | 日常食品のごみについては、健康面等の影響も出てくるかもしれない、有料化はしない方がよいと思う。衣類や靴などのリサイクル店では店によりかなり高値のところもあるので、そのような事に関しては区が介入して買いやすい値にするのも一方法ではと思う。 |
| 戸別収集について | 1件 | 戸別収集をしてほしい。共働きなのにごみの集積場所の掃除が回ってきて、やっていないと言われるのは困る。もっと、働いている女性に優しいシステムを考えて欲しい。集積場所のごみをチェックする人もいるので、究極の個人情報だと周知させてほしい。 |

【ご案内】

✈️ 国際都市おおたフェスティバル in 「空の日」 羽田 ✈️

大田区は世界とつながる国際都市として、外国人にとっても魅力的であり、住みやすく働きやすいまちづくりを進めています。この度、羽田空港旧整備場地区で大田区ならではの温かいおもてなしと世界の都市を旅する気分を体験することができるイベント

「国際都市おおたフェスティバル in 「空の日」 羽田」を開催いたします！

パクンマクンをオープニング・ナビゲーターに迎えるステージでは、大田区の郷土芸能や海外の音楽などを楽しむことができます。世界のおいしい食べ物が集合したワールドフードコート、異文化体験を楽しめるワールドカフェ、多言語の羽田まち歩きツアーなど「国際都市おおた」を体験できる楽しいイベントが盛りだくさんです。大田区観光大使も会場でお待ちしています。

ご家族、ご友人とお誘い合せのうえ、是非お出かけください。

また、お知り合いにこのイベントに興味をお持ちになりそうな方がいらっしゃいましたら、ご案内ください。

イベント詳細につきましては、別添のチラシをご覧ください♪



《イベントに関するお問い合わせ先》

観光・国際都市部

国際都市・多文化共生推進課

電話：03-5744-1226

大田区役所 区民の声課 区政サポーター担当

電話：03-5744-1135

メールアドレス：supporter@city.ota.tokyo.jp

区政サポーター通信【第6号】

区政サポーターの皆様へ

いつも大田区政にご理解とご協力を賜りまして、ありがとうございます。

「区政サポーター通信第6号」では、先日行った「平成26年度第2回アンケート調査」の集計結果（概要）、「人権週間講演会」及び「区政サポーター会議」についてご報告いたします。

第2回アンケート調査結果（概要）

「大田区地域文化振興プラン」の改訂にあたり、大田区の文化振興施策に関する区民の意識を調査し、今後の参考とするために調査を行いました。

1.調査期間

平成26年12月12日（金曜日）～ 12月24日（水曜日）

2.調査項目（★は本紙で取り上げたもの）

(1)（公財）大田区文化振興協会について

- ★①（公財）大田区文化振興協会の認知度
- ★②（公財）大田区文化振興協会に期待する取組み

(2)文化活動への取組み・考えについて

- ①文化・芸術活動への取組み状況
- ②現在行っている文化・芸術活動
- ③文化・芸術活動を行っていない理由
- ④今後行ってみたい文化・芸術活動
- ⑤利用したことがある区内の公共的文化施設
- ⑥文化施設を利用する上で施設を選択する基準
- ⑦文化・芸術活動を行いやすい時間帯
- ⑧文化・芸術活動をより活発に、深く楽しむために必要なこと
- ⑨文化・芸術活動をより活発に、深く楽しむために必要な場所
- ⑩文化・芸術活動をより活発に、深く楽しむために必要な情報
- ⑪文化・芸術活動に関する情報を得るために利用したい方法
- ⑫文化・芸術活動のためにかけてもよい費用
- ★⑬大田区をアピールできる文化的資源
- ★⑭文化・芸術振興を進めるために行政に期待すること
- ★⑮今後の大田区の文化・芸術に関する取組みとして重要なこと

(3)大田区とその文化・芸術施策について

①大田区の特徴・イメージ

- ★②大田区の文化・芸術施策の満足度と重要度
- ★③大田区の文化・芸術施策全体の満足度
- ★④大田区の文化・芸術に対する関わり方
- ★⑤特に力を入れるべき大田区の文化・芸術施策
- ★⑥大田区の文化・芸術施策に期待する効果
- ★⑦文化・芸術振興に関する自由意見

3.調査票回収結果 (調査票配付 97 票)

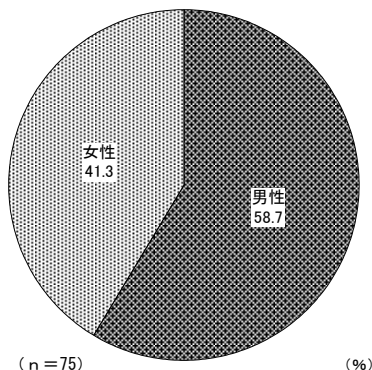
○調査票回収数 75 票 (うち郵送 32 票、Eメール 43 票)

○有効回収率 77.3%

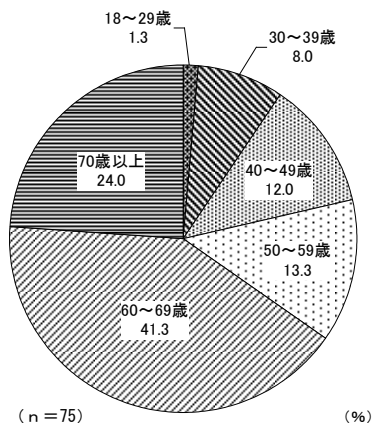
【第2回アンケート調査結果】

1 回答者の属性

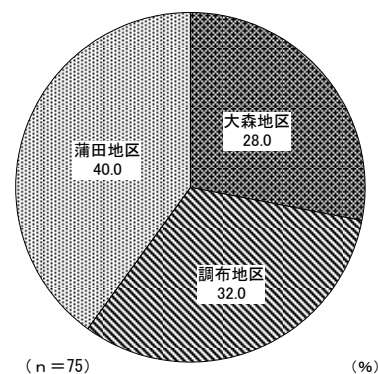
【性別】



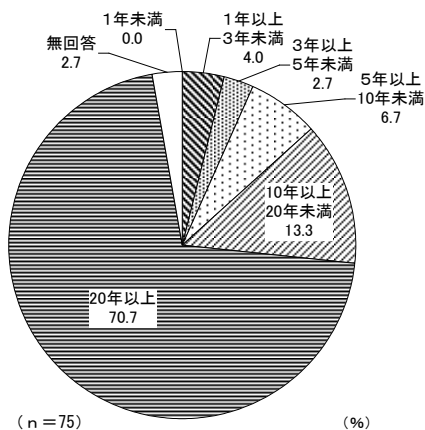
【年齢】



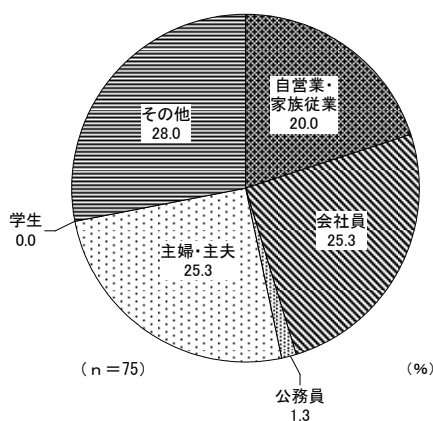
【地区】



【居住年数】



【職業】



2 調査の結果（抜粋）

【担当課コメント】

「大田区地域文化振興プラン」の改定にあたり、大田区の文化振興施策に関する区民の意識を調査し、参考とするために実施しました。

はじめに、文化振興を進めるために行政に期待することは何かとの設問に「区民が取り組んでいる文化・芸術活動などの情報提供」が48.0%で最も高く、次いで「区内に存在する文化・芸術などの詳しい情報の提供」の順で回答があり、情報提供に関する期待をされている方が多くいらっしゃるのことがわかりました。さらに、その情報を得るために利用したい方法や手段についての設問では、「区広報紙」78.7%が最も高く、「ホームページなどのインターネット」、「掲示板などのポスター」と続きました。この結果から区民の方が文化活動の情報収集に高い関心があることや効果的な情報提供方法やネットワークの構築が重要な課題であることをあらためて認識いたしました。

また、時間が無いとの理由で現在文化・芸術活動に参加していない方も芸術鑑賞や講座には参加したい意欲があることもわかりました。行政として、多くの区民の皆さんが生きがいや楽しみをもって地域で文化活動できる環境の整備を行うことの必要性を感じました。

今後の大田区の文化・芸術に関する取り組みで重要だと思ふことの設問に対しては「文化財など歴史的遺産を保存し、地域の中で活用していくこと」が最も多い回答数を得ました。区内には歴史的価値の高い文化財が多数存在していますが、そのほかにも地域に潜在している文化資源があります。区としては、地域の文化資源を発掘・保存・継承しながら、大田区らしい魅力と活力を創出してまいります。

今後、区政サポーターの方からいただいた貴重なご意見を参考に、関係機関と連携しながら文化施策を検討し、さまざまな取り組みをすすめてまいります。

（国際都市・多文化共生推進課）

(1) (公財) 大田区文化振興協会について

① (公財) 大田区文化振興協会の認知度

(公財) 大田区文化振興協会は、クラシック、ポピュラー、ジャズ、落語や能・狂言、文楽といった伝統芸能など様々な公演を企画・運営している他、大田区民ホール・アプリコや龍子記念館など7つの文化施設を管理しています。

問1 あなたは、(公財) 大田区文化振興協会の存在や活動内容を知っていましたか。

(公財) 大田区文化振興協会の存在や活動内容を知っていたか聞いたところ、「存在・内容とも知っていた」が37.3%、「存在は知っていたが内容はよく知らなかった」が36.0%、「存在も知らなかった」が25.3%となっています。

② (公財) 大田区文化振興協会に期待する取組み

問2 あなたは、(公財) 大田区文化振興協会に、文化・芸術に関する取組みとして、どのような取組みを期待しますか。

(公財) 大田区文化振興協会に、文化・芸術に関する取組みとして、どのような取組みを期待するか聞いたところ、「美術・音楽・演劇などの魅力のある公演を行う」が48.0%で最も高く、次いで「文化財など歴史的遺産を保存し、地域の中で活用していく」(46.7%)、「文化施設でのボランティアにNPOや区民が積極的に参加できる仕組みをつくる」(29.3%)、「区民が取り組んでいる文化・芸術活動などの情報を収集・提供する」(26.7%)、「区の文化・芸術を推進・継承できる人材を育成する」(25.3%)などの順となっています。

(2)文化活動への取組み・考えについて

⑬大田区をアピールできる文化的資源

問 15 大田区をアピールできる文化的資源は何だと思えますか。

大田区をアピールできる文化的資源は何だと思うか聞いたところ、「池上本門寺や新田神社、六郷用水などの歴史的な建造物」が53.3%で最も高く、次いで「池上本門寺お会式や羽田祭などの祭」(49.3%)、「多摩川や洗足池等区内に点在する豊かな自然」(48.0%)、「世界に誇れる超微細加工をはじめとした工業技術」(37.3%)などの順となっています。

⑭文化・芸術振興を進めるために行政に期待すること

問 16 今後、大田区で文化・芸術振興を進めるには、区民と行政の連携・協働が必要と考えられます。行政に対してどのような支援・役割を期待しますか。

文化・芸術振興を進めるために、行政に対してどのような支援・役割を期待するか聞いたところ、「区民が取り組んでいる文化・芸術活動などの情報提供」が48.0%で最も高く、次いで「区内に存在する文化・芸術などの詳しい情報の提供」(42.7%)、「区の文化や芸術についての講座や教室など人的な支援」(37.3%)、「財政的な支援」(32.0%)などの順となっています。

⑮今後の大田区の文化・芸術に関する取り組みとして重要なこと

問 17 あなたは今後の大田区の文化・芸術に関する取り組みとして、何が重要だと考えますか。

今後の大田区の文化・芸術に関する取り組みとして、何が重要だと考えるか聞いたところ、「文化財など歴史的遺産を保存し、地域の中で活用していくこと」が54.7%で最も高く、次いで「美術・音楽・演劇などの芸術活動を地域で盛んにしていくこと」(45.3%)、「地域の伝統的な祭り・行事・芸能などを保存していくこと」(34.7%)、「高齢者などの生きがい創出のための文化・芸術活動を盛んにしていくこと」(33.3%)などの順となっています。

(3)大田区とその文化・芸術施策について

②大田区の文化・芸術施策の満足度と重要度

問 19 あなたは、以下の(1)～(9)の項目についてどの程度満足していますか。また、今後の文化・芸術施策のなかでどの程度重要だと思いますか。

大田区の文化・芸術施策について、9項目に分けて満足度と重要度を聞きました。満足度では、「満足」と「やや満足」の2つを合わせた『満足』の割合が最も高いのは、(1)文化・芸術に関する施設(61.3%)で、次いで(9)自然と歴史の調和(53.3%)、(8)文化的景観の形成(46.6%)、(6)文化・芸術の発表の機会(45.4%)などの順となっています。

一方、「やや不満」と「不満」の2つを合わせた『不満』の割合が最も高いのは、(3)文化・芸術の人材育成の機会(66.7%)と(7)文化・芸術と産業の連携(66.7%)で、次いで(5)文化・芸術による国際交流の機会(64.0%)、(4)文化・芸術に関わる人・グループ間の交流の機会(58.7%)、(2)文化・芸術に市民参加ができる事業(56.0%)などの順となっています。

重要度では、「重要である」の割合が最も高いのは、(9)自然と歴史の調和(57.3%)で、次いで(8)文化的景観の形成(49.3%)、(1)文化・芸術に関わる施設(45.3%)、(2)文化・芸術に市民参加ができる事業(44.0%)などの順となっています。

③大田区の文化・芸術施策全体の満足度

問 20 あなたは、大田区の文化・芸術施策全体に満足していますか。

大田区の文化・芸術施策全体に満足しているか聞いたところ、「満足」(5.3%)と「やや満足」(45.3%)の2つを合わせた『満足』は50.6%となっている。一方、「やや不満」(42.7%)と「不満」(6.7%)の2つを合わせた『不満』は49.4%となっています。

④大田区の文化・芸術に対する関わり方

問 21 大田区らしい文化を育てるための、大田区の文化・芸術に対する関わり方についてお伺いします。

大田区らしい文化を育てるための、大田区の文化・芸術に対する関わり方について、5つの考え方に対して、賛成するか反対するかを聞きました。

「そう思う」と「まあそう思う」の2つを合わせた『そう思う』の割合が最も高いのは、(5)「大学や企業などの協力を得て、大田区の文化行政を行った方がよい」(73.3%)で、次いで(3)「大田区に住んでいる(ゆかりのある)芸術家や文化人が区内で活動できる場や機会を多くした方がよい」(72.0%)、(4)「大田区の文化振興のために専門家や専任の職員を育てることが必要である」(66.6%)、(2)「ふだんよく見聞きするものだけでなく、むしろ知る機会の少ないものに力を入れるのがよい」(56.0%)などの順となっています。

一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」の2つを合わせた『そう思わない』の割合が最も高いのは、(1)「文化行政はどの分野も公平に扱うのではなく、たとえば音楽や美術などの特定の分野に力を入れるのがよい」(29.3%)となっています。

⑤特に力を入れるべき大田区の文化・芸術施策

問 22 大田区の文化・芸術施策で、特に力を入れるべきだと思うものは何ですか。

大田区の文化・芸術施策で、特に力を入れるべきだと思うものは何か聞いたところ、「コンサートや美術などの文化・芸術にふれる機会を増やす」が58.7%で最も高く、次いで「文化施設でさまざまな講座を行う」(52.0%)、「コンサートや美術などの文化・芸術に関する情報提供を行う」(49.3%)、「文化・芸術に触れるきっかけとなるワークショップや鑑賞教室を行う」(46.7%)、「文化団体に関する情報の提供を行う」(42.7%)などの順となっています。

⑥大田区の文化・芸術施策に期待する効果

問 23 あなたは、大田区の文化・芸術施策がすすむことで、どのようなことを期待しますか。

大田区の文化・芸術施策がすすむことで、どのようなことを期待するか聞いたところ、「区民が生きがいや楽しみを見いだせる」が64.0%で最も高く、次いで「地域に対する誇りや愛着が醸成される」(61.3%)、「子どもが心豊かに成長する」(58.7%)、「区民同士の交流や社会参加が盛んになる」(50.7%)、「地域のイメージが向上する」(46.7%)などの順となっています。

⑦文化・芸術振興に関する自由意見

問 24 最後に、文化・芸術振興に関しての問題や行政に対するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

文化・芸術振興に関する意見を自由記述形式で聞いたところ、38人から42件の回答がありました。掲載にあたっては、記述の趣旨を損なわないように留意しながら文言を改めたものもあります。

| 分類 | 件数 | 主な意見（要旨） |
|---------------------|----|--|
| 文化・芸術に触れる機会の充実について | 5件 | 施設の建設や助成金もある程度必要だが、一般区民が文化・芸術の活動をしやすいような場をつくることが重要だ。 |
| | | 小・中学校の授業で子どもに一通り説明し、親、自治会、企業も参加しやすい環境を構築すべきと思う。大田区のホームページを見てもらう試みをして、人数を集めたほうが良いと思う。 |
| 文化・芸術施策の重要度について | 5件 | 地域の文化・芸術振興に行政として助成や施策を進めることはもちろん大事なことが、他の施策との兼ね合いを考えて進めることが重要と思う。まずは区民の毎日の生活に欠かせない案件から充実させてほしい。 |
| | | 予算執行のプライオリティは、災害対策や安全な交通環境づくりなどの他の重要事項と比べて低いので、文化・芸術振興は無理せず民間に任せるべきである。 |
| 文化・芸術に関わる施設等の整備について | 4件 | 羽田空港以外の公共交通の窓口である JR 大森駅、蒲田駅周辺を洗練された大田区として特徴ある文化的なまちなみに変貌させる行政からの支援。 |
| | | 全域が比較的均質的な杉並区や世田谷区と違い、大田区は羽田・大森・蒲田・田園調布と多様性に富んでいるので地域特性にあった文化の醸成が必要だと思う。特別出張所、文化センターの役割が大きいと思う。 |
| 文化・芸術に関わる施設等の利用について | 4件 | 施設利用の予約が大変である。 |
| | | 他の区には書籍が多く、コンシェルジュがいるような巨大図書館があると聞いた。大田区は図書館がちらほらあるようだが、どこも書籍数が少なく閲覧できるスペースも狭いと感じている。文字離れが社会的にも問題視されているので、文化はもちろん教育の一環として図書館の充実を図るべきだと感じる。 |

| | | |
|---|------------|---|
| <p>区の文化・芸術を推進・継承できる人材の育成について</p> | <p>4 件</p> | <p>お祭りの「お囃子」など、そのときになると技術・文化の伝承の必要性を感じるが、祭りが終わると忘れてしまう。区内にある文化といっても多様。何を優先していくのか、個人の趣味の延長としての芸能と地域固有の芸能を分け、まずは後者の伝承が必要ではないだろうか。</p> <p>大田区には伝統工芸・匠の技など、知ってもらい、次世代へつなげていく後継者の発掘など、公金でスポットライトを当てる必要がある分野がある。知ってもらう活動として、草の根作戦的に紹介できるボランティアを育成することにもっと力を入れたほうが良いのではないだろうか。馬込文士村・六郷用水などのボランティアもたくさんいるが、年齢層があまりにも狭い。オリンピックも控えているのだから、現役世代もボランティアできるような育成の工夫なども必要ではないだろうか。知識だけではなく、おもてなしの心も含めた育成が必要だと感じる。</p> |
| <p>他市や外国との交流について</p> | <p>4 件</p> | <p>大田区に既に存在する文化・遺跡・施設・自然など、魅力あるものを外に向けて発信する。フェイスブックなどを活用して、外国人にも大田区の魅力を知ってもらう。</p> <p>羽田国際空港があるのに、国際交流の場、機会がほとんどない。</p> |
| <p>美術・音楽・演劇などの公園について</p> | <p>3 件</p> | <p>高齢化が進み、遠くまで行けない人がますます増加する中で、地域のコンサートの需要は深まるばかりと思う。期待している。</p> |
| <p>文化・芸術に関する講座や教室について</p> | <p>3 件</p> | <p>絵画や書道の指導を受けてみたいと思うが、指導者や教室を見つけることが大変だと感じる。情報の提供に力を入れてもらえると助かる。</p> |
| <p>文化・芸術に関するイベントなどの情報の提供について</p> | <p>3 件</p> | <p>様々な行事のお知らせについてのチラシが、区役所・出張所だけにあるのではなく、普段の生活で目に入る場所にあるとわかりやすい。</p> |
| <p>区民が取り組んでいる文化・芸術活動などの情報の収集・提供について</p> | <p>2 件</p> | <p>西嶺町に西堀栄三郎氏のお宅があった。氏は日本山岳会の重鎮であり、南極観測にも力を出した方。今年春ごろまでお宅があり資料を展示されていたが、今はない。他にも、日本文化に貢献されながら、必死に一人で守っておられる方がいるのではと思う。区としては、そういう方の掘りおこしと、援助ができる体制づくりをお願いしたい。資料が分散した後では遅いのではと思う。</p> |

| | | |
|--------------------------|----|--|
| 文化振興のための専門家や専任の職員の育成について | 2件 | 文化・芸術振興を発展させるためには、興味や知識がなくても参加できるよう、学芸員や専門家と一般の人との懸け橋になれる人物の育成・確保が必要なのではないかと思う。特に子どもはどのような可能性を秘めているかわからないので、まずは浅く広くいろいろな文化に触れさせるべきだと思う。言語も英語だけでなく、色々な言語に触れられるような機会・場所を設けると良いと思う。学童保育でできたりするなど。 |
| 新しい文化・芸術への取り組みについて | 2件 | IID 世田谷ものづくり学校がひとつの理想形であると思う。高尚な芸術のみが芸術にあらず、コラボを使った、例えば、日本工学院出張キャンパスや下町ボブスレー、nbike 試乗体験会などが新しいムーブメントを生み、結果的に文化・芸術による地域振興につながるということもあると思う。文化という形になるまでには相当な時間と投資が必要になると思われ、例えば食と音楽など、単一要素でなく複合的に異なる要素を絡ませることが重要だと思う。 |
| その他の意見 | 2件 | 立派な文化・芸術であっても、まちが荒れていたり、整っていないなかったり、汚れていたりすると、素晴らしさは本来の姿を呈しないのではないだろうか。区内をきれいにし、街路樹・街路植木を整えて、文化・芸術を味わうほうが効果的だと思う。 |

【平成26年度人権週間講演会】

わが国では、毎年12月4日から10日までの一週間を「人権週間」と定めており、区では、基本的人権の大切さについて、正しい理解と認識を深めていただくために様々な啓発活動を行っています。今回、人権週間行事として開催された講演会に、区政サポーターの皆様に参加していただきました。

- (1) 日 時：平成26年12月17日（水曜日）午後2時～3時45分
- (2) 場 所：大田区民プラザ
- (3) 講演内容：『出会いの人生から学んだこと～誰もが人として輝くために～』
講師：菊地 幸夫氏
- (4) 参加者：区政サポーター 30名
(郵便によるサポーター15名、Eメールによるサポーター15名)



講師：菊地 幸夫氏



会場の様子

【写真提供：人権・男女平等推進課】

【区政サポーター会議】

区政サポーター第2期のしめくりに際し、区政サポーター活動の振り返りを行うとともに、区政への引き続きのご理解・ご協力をお願いするため、「区政サポーター会議」を開催しました。

(1) 日 時：平成27年1月24日（土曜日） 午後2時～4時

(2) 場 所：大田区役所 本庁舎11階 第五・第六委員会室

(3) 出席者：区政サポーター 42名

(郵便によるサポーター18名、Eメールによるサポーター24名)

区側出席者：大田区長、区長政策室長、政策課長、区民の声担当係長、
区政サポーター事務局

(4) 次 第：

○開会

政策課長

○区長あいさつ

大田区長

○第2期区政サポーター活動報告

区政サポーター担当係長

○区政の現状について

区長政策室長

○グループディスカッション

・世論調査の結果について

区民の声担当係長

・グループディスカッション(40分)

区政サポーター 42名(全6グループ)

○グループ発表(各グループ4分)

区政サポーター (各グループの発表者)

○グループ発表を受けて

区長政策室長

○閉会

政策課長



区長あいさつ



グループディスカッションの様子



グループ発表の様子

(5) グループディスカッションについて

世論調査の結果(定住意向)についての説明後、グループ(各グループ7名)ごとに司会者、書記、発表者を決めていただき、テーマにそってディスカッションをしていただきました。なお、グループについては、年代・性別を考慮したうえで事前に決定しています。

| 《テーマ》住み続けたいまち“おおた”について | |
|-----------------------------|---|
| ①世論調査の結果(定住意向)について | 「大田区政に関する世論調査」の結果の中で、「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた定住意向が、86.7%となっています。2年前に調査したときは、定住意向が72.6%であったため、今回14.1%アップしました。この結果について感じたことをグループ内でお話し合ってください。 |
| ②住み続けたいまちであるために… 区に期待すること | ずっと住み続けたいまちであるために、区はどのような課題の解決に力を入れていくべきか等について、グループ内でお話し合ってください。 |
| ③住み続けたいまちであるために… 区民としてできること | ずっと住み続けたいまちであるためには、区民と区との連携・協働が不可欠です。区民と区が協力して“まち”をつくっていくために、区民一人ひとりがどのように関わっていくことができるか等について、グループ内でお話し合ってください。 |

(6) グループ発表について

各グループの代表者の方にディスカッションの内容について発表していただきました。その要旨を掲載いたします。掲載にあたっては、発言の趣旨を損なわないように留意しながら文言を改めたものもあります。

【発表内容】

- ①世論調査の結果について ②区に期待すること ③区民としてできること

| 【1グループ】 | |
|---------|---|
| ① | <ul style="list-style-type: none"> ・「交通・買い物が便利」「景色が良い」等、アンケートの結果に近いような意見を皆持っていた。その反面、海拔の低さからくる心配やごみ置き場の管理ができていないなど、安全面が気になるという意見があった。 ・高齢化が非常に進んでいるので、もともと区から動きたくないという人が多くなる傾向があるのではないかと思う。 ・アンケートの質問の仕方が、ちょっと数値の上がりやすい質問に今年は変わっていたのではないかという意見が出た。 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> ・若者の意見を反映できるようにしてほしい。 ・地域力をもう少し高め、高齢者を助けたり助けられるような工夫が必要。 ・ごみ問題や美観の問題を改善してほしい。 ・外国人の方々について、観光だけではなく実際に住んでいる方もたくさんいるので、町内会等にもっと参加してもらえよう工夫してほしい。 ・情報発信等をもう少し良くして、区民との情報共有を進めてほしい。 |

| | |
|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ネット等で区民がもっと意見を出せる場があったらよいのではないか。 ・パブリックコメントももっと提出しやすい方法にしてほしい。 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ拾いなどに参加していく。 ・区に対してもっと積極的に意見を出していく。 |

※2グループは欠席多数のため、他グループへ割り振り、調整を行った。

| 【3グループ】 | |
|---------|--|
| ① | <ul style="list-style-type: none"> ・「住み続けたい」という割合が86.7%とのことだが、胸を張って住み続けたい！ということではなく、消極的な意向が反映しているのではないかという意見が出た。 ・「4万以上の空き家」や「少子化」、「高齢化」が進み、人が住まなくなっているのに、86.7%でよいのか？という疑問が出た。 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> ・京急蒲田やJR蒲田について、全体をもっと俯瞰してみて、密集地帯の開発など、武蔵小杉や六本木ヒルズのようなまちづくりをやった方がよいのではないか。大田区がんばれ！ |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・「50年、100年先を見据えたまち“大田区”」として、すばらしいまちづくりをしてくれるのなら、孫や子に「大田区に住め、こんなに良くなるから」と言いきかせ、「住み続けたい」意向が100%になるように協力します。 |

| 【4グループ】 | |
|---------|--|
| ① | <ul style="list-style-type: none"> ・定住意向が上がったことについて、ここ数年、工場がなくなってマンションが建設され、空き地に小住宅が建ち、大勢の人が住むようになった影響も多少あるのではないかという意見があった。 ・長いスパンで見れば住環境は年々良くなってきているし、少なくとも住みついたら長く住みたいというのも理由のひとつではないか。 ・今回アンケートの選択肢が変わったことも、数値があがった理由になっているのではないか。 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> ・道路が狭いため、危険なところが多い。川崎の方が、自転車用道路がどんどん充実しているので、大田区ももっと整備してほしい。 ・区民に知らせるための広報活動をもっと充実できるよう工夫してもらいたい。多くの人が見ている区報をもう少し増ページするものひとつの方法ではないか。 ・色々な活動に区の職員ももう少し関わって指導してもらいたい。 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・隣近所の「地域力」を増すためには何が一番重要かということ、「あいさつ」なのではないかと考えた。何回もあいさつしているうちに、コミュニケーションも取れる。 ・区民は、区の行事にできるだけ積極的に参加して意見を述べることを心がけるべきではないか。 ・趣味を活かしたボランティア活動を育てていくのも重要だと思う。 |

| 【5グループ】 | |
|---------|--|
| ① | <ul style="list-style-type: none"> ・世論調査の結果について、おおむねこの数字のとおり希望が持てる数字ではないだろうかという意見が多かった。 ・ただ、積極的に住み続けたいというよりは、消極的意見でそういう回答が多かったのではないかという声もあった。 ・回答率が60%に満たない数字で、そのうち「住み続けたい」が86.7%という結果に、喜んでいたら困るという意見もあった。 ・回答者の年齢構成も知りたいが、もっと若い人に住み続けたいような区になってもらわないと困るという意見も出た。 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> ・世論調査で「不満である」という回答が多かったところに焦点を当てて、「災害時の安全性」を中心に話し合った。「安心して暮らせるまちになってほしい」と、「電柱の地中化をぜひ進めてほしい」ということがみんなの総意で出た。 ・狭あい道路の拡張を進めてほしい。 ・道路の整備は時間がかかるので、早急にできることとして、災害時の救出に必要な道具を実際に被災した方々に聞いて、町会で備えていくなどしてほしい。そういうことで安全なまちなのだということをもっと打ち立てて、もっと住みたいまちにしたいという意見があった。 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・大田区は町内会の加入率が高いという話があったが、昔に比べると相当下がってきているのではないかと。隣近所のコミュニケーションなども減ってきているので、そういうものを築いていかなければいけないと思った。 ・個人情報問題やワンルームマンションの増加等が壁になることもあるかと思うが、やはりもっと若い人たちにそういったものに参加してもらえそうな仕組みというものを作っていききたい。 ・「遠くの親戚よりは近くの他人」ということで、「地域力」というものをもっと活かしていきたい。 |

| 【6グループ】 | |
|---------|--|
| ① | <ul style="list-style-type: none"> ・世論調査の結果については、グループの全員とも「住み続けたい」と思っていた。理由としては、「家屋を持っている」(7名)、「交通の便がよい」(4名)、「物価が安い」(2名)の順であった。 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> ・国際化に対する期待として、蒲蒲線だけで大田区に賑わいが生まれるという経済効果があるのかという議題が出た。スムーズに移動できる環境というのはもちろん必要だが、大田区に来た方々が、大田区の中に留まってもらえるような仕掛けというのを区に期待したい。また、外国の方が見てもわかるような道路サインや区による語学勉強会の開催などの意見が出た。 ・羽田空港の近くに海浜公園が必要ではないか。ただし、城南島海浜公園のように車でないと行きづらいというのでは、区民にとっても区に来た方にとっても意味がないので、自転車で移動しやすい環境づくりを期待している。 ・防災に関しては、木造密集地帯や空き家に対する対策を積極的に行ってほしいという意見があった。 ・他に、より過ごしやすい公園づくりをしてほしい、自動販売機が少し多いので規制してほしいという意見が出た。 |

| | |
|---|--|
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・区に期待しているところばかりではいけないと思うので、たばこのポイ捨てなど、区民自身が公園などの公共空間での過ごし方をもう一度考え直さなければいけないと思った。 ・区に自転車走行環境の整備を期待するのであれば、使う区民自身も安全にその環境を活用できるように、積極的に自転車のマナー等の改善に関わっていくべきだ。 |
|---|--|

【7グループ】

| | |
|---|---|
| ① | <ul style="list-style-type: none"> ・「定住意向」が86.7%というのは、「こんな高い数字というのは全く不思議で解せない」という意見だった。環境が年々悪化している所以他区に移りたいが、歳をとったので結局妥協の産物として動けないのではないかと、住まざるを得ないのではないかとという意見が出た。 ・ただ、共感する声もあり、大田区に行っている中学生までの医療無料化により定住意向が高くなっているのもあるのではないかとという意見も出た。 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> ・公園が少ないので大きな公園をつくってほしい。 ・空き家を利用して介護施設をつくってはどうか。 ・自転車が危険なのでその対策を考えてほしい。 ・ベビーカーが通れないような歩道が多いので、対策をお願いしたい。 ・若い人に対して、住宅ローンの援助などをしてほしい。 ・介護施設の設立に資金援助してほしい。 ・子どもの声がうるさいので何とかしてほしい。 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を積極的にやっていくことがよいのではないかとという意見が出た。 |

【世論調査についてのQ&A】

区政サポーター会議の中で出た、「世論調査の結果」に関するご質問についてお答えします。

Q1 回収率が56.0%しかなくて、有効な結果なのか？

A1 統計学上有効です。

Q2 「これからも大田区に住みたいと思いますか？」の選択肢が前回から変わっている。今回、定住意向の結果が86.7%となったとのことだが、選択肢が作為的ではないか。

平成24年までの選択肢（4肢）

- 1 これからも住みたい
- 2 あまり長く住みたくない
- 3 大田区外へ移りたい
- 4 わからない

平成26年の選択肢（5肢）

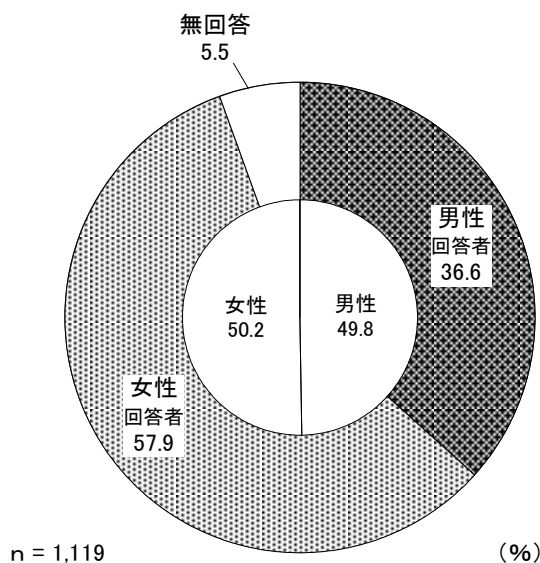
- 1 ずっと住み続けたい
- 2 当分は住み続けたい
- 3 できれば大田区外へ移りたい
- 4 大田区外へ移りたい
- 5 わからない

A2 他区の調査を参考に、選択肢の見直しを行った結果です。

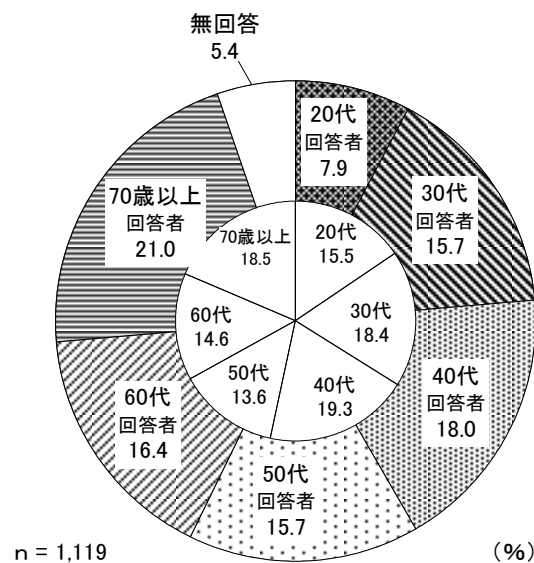
Q3 回答者の男女比、年齢別等の資料がほしい。

A3 回答者の属性は以下のとおりです。

(1) 性別



(2) 年齢



※内円は母集団の、外円は調査回答者の構成比を表しています

出典：大田区政に関する世論調査(平成26年7月実施)

◇詳しい調査結果は、「大田区政に関する世論調査」結果報告書をご覧ください。報告書は、区ホームページ、区立図書館及び区政情報コーナーで閲覧できます。

次回以降の世論調査に該当されましたら、

ぜひご協力をよろしくお願いいたします！

《あとかき》

区政サポーターの皆様には、区政への協力者としてあるいは応援団として、積極的に活動に参加していただき、心より感謝申し上げます。

今年度は各部局からの依頼が時期的に重なってしまったため、年末年始のお忙しい時期に、たて続けにご協力をお願いすることとなり、大変申し訳ございませんでした。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

アンケート調査の結果やたくさんのご意見は、今後の区政運営のための貴重な資料として活用してまいります。

区政サポーター第2期としての活動は、今月をもって終了となりますが、今後とも区政へのご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

※今回の区政サポーター通信は容量が大きいため、Eメールによるサポーターの方にも郵送させていただきます。ご了承ください。

大田区役所 区民の声課 区政サポーター担当
電話：03-5744-1135
メールアドレス：supporter@city.ota.tokyo.jp